

ASMSA 滞在記

本校の姉妹校であるASMSA(Arkansus School for Mathematics Science and the Arts)の一行(生徒8名, 引率教員4名)が10月中旬来日し, 本校生徒との交流をはじめいろいろな活動を行いました。その間の様子について簡単にまとめましたので, ご紹介します。

2019.10.18

飛行機を乗り継いで伊丹空港に18過ぎに到着。新大阪→広島駅→JSM アステールプラザホテルへと移動に次ぐ移動の日であった。ホテル到着まで25時間かかったとのこと。明日は一日広島市内を散策されるので、早めに打ち合わせも終える。



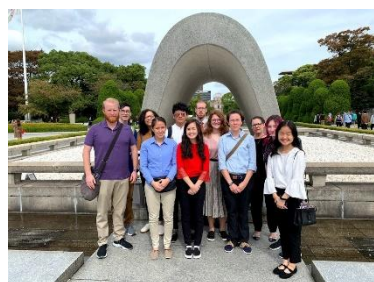
2019.10.19

ASMSA で行動される。宮島や弥山(みせん)を満喫される。昼食にはお好み焼きも食されたとのこと。



2019.10.20

本校より乾・木内・三宅が合流し、広島平和記念資料館および公園を見学・散策後、social book café「ハチドリ舎」を訪れ、被爆者の講話を聞く。講師は英語が堪能な方で、英語による講話であり、その後の質問では「セキュリティ」に関する質問が場をにぎわせた。この体験をもとに、23日には本校生とASMSA生とで平和に関する学習である「ピースプロジェクト」を行う。



2019.10.21

広島から新大阪に移動し、その後は宿泊先のホテルに向かう。

2019.10.22

本日は京都での研修を行う。本校生とともに京都南丹市にある「美山かやぶきの里」を訪れ、現地での伝統食調理実習(こけら寿司とおにぎり)とかやぶきの里ガイドウォーク、そして金閣寺参拝のプログラム。

「かやぶきの里」では、卵焼きやみそ汁、混ぜ寿司やおにぎりの調理実習を行った。おにぎりに関しては具材を入れて形をまとめる作業に ASMSA 生だけではなく本校生も苦戦をしていた。実習中には本校生がアドバイスをする場面も見られ、積極的に交流しようというようすが見られた。ガイドウォークでは、日本古来の「かやぶき」を間近で見ることができ、またガイドも英語で行っていただき、有意義な時間となった。

「金閣寺」では、天候にも恵まれ、非常に美しい鹿苑寺の姿を参拝することができた。湖面の波立ちも少なく、上下ともに美しく映えるその姿はまさに必見の価値あり、である。

本プログラムでは、学校から美山を経由して金閣寺、そして学校へとバス移動の長い日であったが、参加した SSH 選択者、ホストファミリーの生徒はともに ASMSA の生徒との交流を楽しんでいる様子だった。

そして、本日から ASMSA 生はホームステイが始まる。どんな思い出を作ってくれるのだろうか。



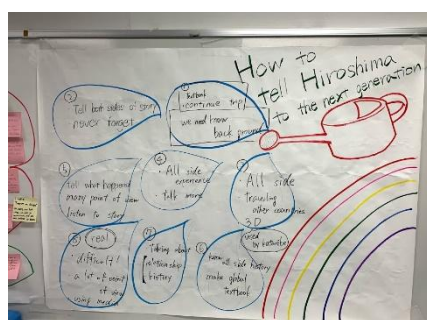
2019.10.23

本日より学校での生活が始まる。8 時過ぎに登校したのち、学びのもりで吹奏楽部による歓迎演奏会が開かれた。曲目は「星条旗よ永遠なれ」「アラジンメドレー」であった。そのあと各クラスに分かれての授業であったが、家庭科では手話を学習し、互いに自己紹介をするなど、難しいなりに楽しんでいる様子であった。LHR では、歓迎式を各クラスで行い、工夫を凝らしたプログラムであった。

4 時間授業のあと、グリーンコートにて歓迎式典を執り行う。司会は本校生徒が行い、代表者の挨拶も英語でつつがなく終了した。



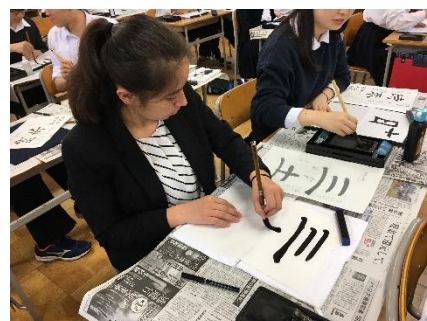
この日の午後、本校の SSH 選択者と ASMSA 生とが協同して平和について考える「ピースプロジェクト」が学園ホール 2 階で行われた。第 2 次世界大戦に対する日米での印象の違いを知り、そのうえでお互いに意見を言い合い、その内容をホワイトボードにまとめていく。作業を経る中で、そこには「平和」とは何かを真剣に考える高校生に姿があった。英語での発表で、本校生の発表を支える ASMSA 生の姿を見ると、言語の垣根を超えた「一体感」を感じ取ることができ、双方にとっても、そして我々教員にとっても有意義な時間であった。



2019.10.24

School Day 二日目。ホスト先の生徒と一緒に登校してくる姿をみると、たったの数日でここまで仲を深めることができるのだなあと感心することばかりである。

授業の様子を見ても、ほとんどの授業でいつもの授業を日本語で実施していたが、そのたびに近くにいる生徒が英語でやりとりをしている様子であった。芸術でも書道を体験してもらったが、「とめ、はね、はらい」も知っている範囲内の英語を駆使しながらサポートしていた。



2019.10.25

本日はいよいよ学校滞在の最終日である。授業の様子は大きく変わらないが、休憩の時間に ASMSA の生徒と話していると、日本の授業スタイルとアメリカのスタイルの違い(授業時間の長さや授業の受け方など)に驚いている様子だった。どちらが良い・悪いではなく、文化の違いとして受け入れ、理解に努めていたようである。

放課後は 16 時から学園ホール 2 階でフェアウェルパーティーである。本校生徒たちが前もって考えてきたプログラムで、双方入り混じっての賑やかな会であった。最後には附中の伝統である「附中応援歌」を全員で練習・披露した。3・3・7 拍子は ASMSA の生徒にとっては初めてだったようだが、本校生同様に大きな声でかっこよく決まっていた。全員での集合写真を見ても分かるように、参加者全員、

特に生徒たちの良い笑顔が、ここまでのホームステイが大成功だったことを物語っている。この日がホームステイ最終日であるので、最後に日を大いに楽しんでほしい。



2019.10.26

終日、Host Family Day として各家庭で観光や体験をする。京都の時代まつりを見に行ったり、茶道体験をしたりとそれぞれが有意義に過ごしていたようである。宿泊先のホテルに送り届けてもらった際には、もう会えなくなることで、目に涙を浮かべて別れを惜しむ生徒もあり、このプログラムが双方の生徒にとって思い出深く、そして一生の財産になったのではと感じられた。

2019.10.27

10 時にホテルを出発し、伊丹空港へ向かう。この日もホテルまで見送りに来てくれる本校生がたくさんおり、急遽、伊丹までの送迎バスへの搭乗も OK とし、最後の最後まで交流を楽しんでいた。

本プログラムを実施するにあたり、学校内の関係者のみならず、新幹線や宿泊の手配、被爆者の招待、かやぶきの里でお世話になった方々に感謝申し上げたい。それ以上に、歓迎式典、歓迎会、フェアウェルパーティ、そして毎日にわたって ASMSA 生のことを第一に考えて行動してくれた本校生徒たちの頑張り、企画力、実行力、そして気配りの細やかさには驚くばかりであり。彼ら・彼女らには本当に感謝したい。

2019.10.27
国際交流委員会